

リレー連載生ヒストリー—温故知新
第 20 回 宮原 豊さん (65 期)
その 1 : 第 51 回総会の思い出

1. 関東同窓会に関わったきっかけ

現役時代、国内・海外の転勤が多かったのですが、後に (2017 年) 関東同窓会第 19 代会長となる同期の上原昇君とは特に懇意にしていました。その上原君に誘われて第 36 回総会に初めて出席しました。大先輩の 50 期が主幹事の年で、55 期、60 期、そして我々 65 期も幹事として受付等の役割を仰せつかりました。平成 9 年 (1997) ですから年齢は 48 歳でしたが、この時に同期 15 名が総会に参加しました。

それ以前の、ちょうど年号が平成に移行する 1990 年頃から、「うちの旦那の趣味は高校同期会だから」(夫人の言) という上原君を中心にして 65 期 11 クラスの関東在住者の名簿作成が進められ、飲み会に参集したメンバーから口コミでクラス毎に名簿が整備されました。昨今は個人情報保護法の影響もあり名簿は作成しにくくなっていますが、地道なやり方で集められた 11 クラス全体の関東在住者の名簿は 65 期の幹事が管理しています。

話を元に戻します。1990 年の頃と言えば、65 期の仲間は 40 歳代の前半で、誰もが仕事で充実していた年代でしたが、一方ではゆとりのある良き時代でもありました。年平均 2 回ほどの会合に、人数が増えて 30 人~40 人が集まるようになりました。それが関東同窓会幹事年の 36 回、41 回、46 回を経て主幹事年の第 51 回総会への同期生動員の原動力になりました。私は海外勤務中は例外として、東京にいる限りは万難を排して総会に出席しました。因みに、65 期の集まりは、上田で卒後 45 年記念 (2011)、卒後 50 年記念 (2016)、東京で古希記念 (2018) を開催しました。上田で卒後 55 年記念 (2021 予定) はコロナ禍のためにお預けとなっています。60 歳台、70 歳台になって高校時代同期の友人のありがたさを再認識しています。



第 51 回総会実行委員長挨拶

2. 第 51 回総会実行委員長として印象に残っていること

今も印象に残っているのは、3 点ほどあります。第一は、出席者数が多かったことです。総数が 294 人と、過去最高記録の第 38 回 (1999) の 295 人に迫ったのですが、中でも 80 期より若い (当時 48 歳以下の) 人の出席者が多かったことです。80 期以降の期は 52 人、この時に幹事となった 80 期の 21 人が貢献したのですが、80 期の皆さんはやはりこの総会幹事年の前から同期会を熱心に開催して絆を深めていたそうです。それに加えて、81 期以降が 30 人以上も出席されたので、上田高校関東同窓会の未来は明るいと感じました。これはその時の滝澤会長や歴代執行部が地道に若手会員発掘に取り組んできたことが功を奏したものと思います。

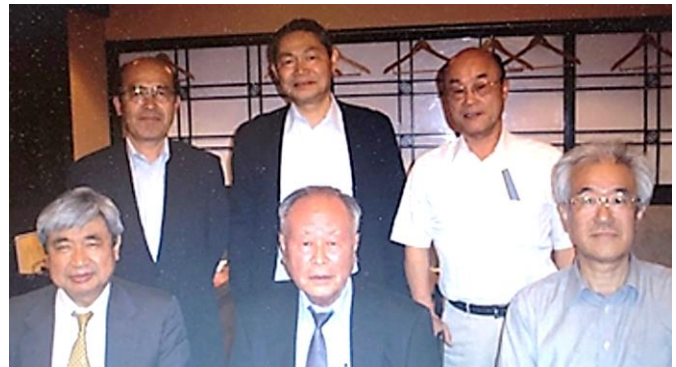
次に懇親会の終盤に、65 期の応援団の西村応援団長とともに、この日のために上田から駆け付けてくれた同期の応援団 OB 3 人 (増沢君、田中君、荻原君) が登壇してその場を大いに盛り上げてくれました。そして、その熱気に誘われて海軍軍人だった大先輩、44 期の長老 4 人が登壇され、後輩を力強

い言葉で激励されました。以上が今も強く印象に残っていることですが、これらについては会報 85 号に紹介されています。

3. 一番苦勞したことは

前年の 2011 年の初秋だったか、同期が集まり第 51 回の実行委員会の役割分担が話し合われました。その時に関東同窓会運営に関わっていた上原君や丸山暢久君がいたので、実は私はあまり自覚がないまま気楽に実行委員長を引き受けてしまったのです。そのような中を、苦勞したという訳ではないですが、一つ思い出を紹介します。

実行委員会として早急に動かなければならなかったのが、総会での講演会や懇親会の余興をどうするかということでした。後者は既に荻原氏（85 期）と窪田氏（99 期）による打楽器の演奏が候補に挙がっていましたが、前者は、複数の講師候補を上げて意見交換した結果、登山家でネパール在住四十有余年、ホテル・エベレスト・ビューの創設者の宮原 巍（たかし）さんに当たることとなりました。



前列左から沓掛君、宮原巍さん、原田君、
後列左から上原君、筆者、丸山君

私は同郷（青木中学校卒）の先輩だから推薦した訳ではなく、同郷とは言え 15 も年齢差がありますから昔からの顔見知りという訳でもありませんでしたが、私がインド・ニューデリー駐在中にカトマンズを訪ねた時にお会いし、その後東京でも日本ネパール友好協会パーティで歓談したことがあり、そこでお聞きしていたことが推薦の理由でした。巍さんから伺っていたのは、エベレスト・ビュー、カトマンズのホテルに続き、秀峰アンナプルナの麓のポカラの丘に第 3 のホテルを建設したいという夢を実現に向けて着々と進めていました。その数年前にネパール国籍を取得しネパール国土開発党を立ち上げて国会議員選挙に立候補するなど巍さんのユニークな生き方は、「ヒマラヤのドン・キホーテ」として有名で、また同窓会の先輩諸氏の間でもヒマラヤ・トレッキングでお世話になったという方が数多くおられました。その頃喜寿を迎えていたのに、まだ飽くなきチャレンジ精神に驚かされ、きっと上田高校の同窓生なら若い人も、校歌の歌詞の「いざ百難に試みむ」を体現しているこの人の講演に興味を持ってくれるのではないかと考えたのでした。

早速、ネパールの巍さんをお願いの趣旨を伝えましたところ、「話しベタだからね」と簡単には引き受けてもらえませんでした。しばらく後にお世話になった上田高校の同期生や友人に会える機会も少なくなってきたし、この年齢になって若い人に伝えたいことがあるからと、講演を引き受けていただきました。朴訥とした話しぶりの中に、やさしさと強い信念を合わせもっている、そのような人柄を感じさせる話でした。

後日談ですが、それから 3 年後の 2015 年 4 月 25 日にネパール大地震が起こり、たまたま日本にいた巍さんは従業員の安否確認を急いだそうです。その時にはアンナプルナの見える第 3 のホテルの建設工事はかなり進んでいましたが、震災後の混乱の中ホテルを完成させました。震災見舞いとして関東同窓会有志からネパールの人々に義援金を送ってもらったことを深く感謝していました。本人はまだまだやりたいことが山ほどあると言いながら、2019 年 11 月 24 日に享年 85 歳で帰らぬ人となりました。